



## 本県観光の強みと課題等

本県の特徴・強み、令和元（2019）年度に実施した各種調査の結果、さらには新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応等を踏まえて、本県観光の課題や、今後の施策展開における着眼点を次のとおり整理します。

### 1 観光人材の育成と確保、DMO<sup>1</sup>の形成促進に向けて

- ・ 観光振興を支える人材の確保と育成が必要です。
- ・ 外国語対応など専門的な知識やノウハウを持った人材の確保・育成と国・地域に対する理解促進が必要です。
- ・ 地域が主体となったDMOの形成を促進することが必要です。
- ・ 観光立県の実現に向けたおもてなしの推進が必要です。

### 2 受入環境の整備・充実強化に向けて

- ・ Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の普及、案内標識等の多言語化など、外国人観光客を受け入れるためのインフラ・システム整備が必要です。
- ・ 誰もが快適に観光できるユニバーサルツーリズムを目指した受入態勢整備が必要です。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により減少した国内外の観光客を呼び戻すため、誰もが安全・安心に観光できる受入態勢の整備が必要です。

### 3 観光地の魅力向上に向けて

- ・ 本県観光地の強みである「花」「食」「温泉」「自然」「歴史・文化」の磨き上げと世界に通用する観光ブランドの確立が必要です。
- ・ 観光素材の掘り起こし・磨き上げと体験コンテンツの充実が必要です。
- ・ 滞在コンテンツの充実やテーマ性・ストーリー性のある周遊ルートの形成等を通じた宿泊促進及び消費喚起が必要です。
- ・ 日本遺産等の地域資源の結びつけなどによる地域間連携の構築・強化及び二次交通の充実による滞在時間・日数の長期化に向けた取組が必要です。
- ・ 富裕層の嗜好を踏まえたコンテンツの磨き上げが必要です。
- ・ 新しい生活様式やテレワークなどの働き方が広がる中において、ワーケーション<sup>2</sup>等の宿泊施設の新しい役割を推進することが必要です。

<sup>1</sup> DMO : Destination Management/Marketing Organizationの略。観光地域づくり法人。様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、Web・SNS等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体。

<sup>2</sup> ワーケーション：「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語。観光地等においてテレワーク（リモートワーク）を活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。



## 4 情報発信・誘客宣伝の強化に向けて

- ・ 社会情勢や観光トレンドを把握し、ターゲットに応じた効果的な情報発信手法を見極め、多様な媒体によるプロモーションを展開することが必要です。
- ・ 国・地域ごとの嗜好を把握したうえで、訴求力の高いPRコンテンツを充実することが必要です。
- ・ 関西圏に対しては、まず一度来ていただけるような魅力を発信することが必要です。
- ・ 本県での宿泊に結びつくPR等を展開することが必要です。
- ・ 「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」開催を生かした積極的な観光誘客を展開することが必要です。
- ・ 映画やテレビ番組等のロケ地を活用した観光誘客を展開することが必要です。
- ・ 観光客の安全・安心を確保するための災害時等の情報発信の充実・強化が必要です。

### 《本県観光に関する SWOT<sup>3</sup> 分析》

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
<b>機会 (Opportunity)</b> ・ いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催 ・ デジタル社会の進展と技術革新	<b>【積極的戦略】</b> ・ いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機とした観光誘客プロモーションの展開 ・ 外国人観光客を惹きつける観光コンテンツ造成及びプロモーション	<b>【改善戦略】</b> ・ ターゲットを定めた効果的な情報発信の強化 ・ 関西圏へのプロモーション強化
<b>脅威 (Threat)</b> ・ 人口減少 ・ 国内観光需要の減少（地域間競争の激化） ・ 新型コロナウイルスの影響 ・ 新しい生活様式の定着	<b>【差別化戦略】</b> ・ 広域周遊観光の促進 ・ とちぎの“食”の魅力を活かした誘客の推進 ・ 東京圏への近接性を生かしたプロモーション ・ 新しい宿泊モデルへの対応（ワーケーションの推進）	<b>【防御戦略】</b> ・ 観光人材の育成と確保、DMOの形成促進 ・ 観光立県の実現に向けたおもてなしの推進 ・ 受入環境の整備・充実強化 ・ 広域連携の強化

<sup>3</sup> SWOT分析：現状分析のために使われるフレームワークであり、外部環境や内部環境を強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の4つのカテゴリで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ。

